



今日も走る 地域のために

南六郷二丁目団地自治会会長
内海 禮子さん

自治会・町内会活動と聞くと、どんなイメージですか。ここ南六郷二丁目団地自治会はまさに地域力の要。地域の抱える問題を自分達に切迫した問題ととらえて、次々と解決に向けて推進し活発に活動しています。

その中心にるのが8年前から会長となつた内海さん。子育て中の在宅期間に「誘われて、お手伝い」をしたのがきっかけです。末子が入園後は職場に復帰し、やがて正社員となつて定年まで働くのですが、この間も自治会活動を継続し、内容を深めてきました。「広報担当の時は締切りがあるので、それこそ夜も寝ないで」やり遂げてきた、その原動力の源を「素晴らしい先輩リーダーの一念が私たちを引っ張ってきたのだと思う」と言い切ります。

南六郷二丁目団地は1118室。居住室数1070世帯中、約850世帯が自治会会員と80%を超える驚異的な加入率です。しかも現在は強制加入、

月額会費は500円。築41年となった14階建ての大型団地は、入居者の高齢化が顕著です。ある方がペットボトルのキャップが開けられずに1週間も飲めなかったと知ったとき、内海さんは大きなショックを受け、すぐに「お手伝い」を仕組み化しました。買い物、掃除、病院付き添い、ふとん干し・取り込み、とにかく始めないと間に合わない！との思いに駆り立てられたと言います。

団地では毎年のように1人、2人と孤独死があるそう。上層階の人ほど外出しない傾向も。都や区の助成金を得ては、ニーズに追いつくようにと様々な問題解決に奔走する日々です。そのひとつに始めた団地内の集会場での昼食会の好評を受けて、さらに「シャッター通りと化した団地商店街の店舗を

Reiko Utsumi



活用して、常設のサロンにしたい」と、都とUR都市機構に申請しています。

六郷地区自治会連合会、23区自治会協議会幹事の要職をこなしながら、自治会役員23人、ほかに大勢の協力者を得て、地域のニーズに心も体も張って応える内海さん。課題は、役員がいか



夕食宅配に特技を生かす女性たち

ワタミ株式会社 広報グループ
増子ひとみさん

高齢化がますます進む日本。夕食宅配ビジネスは最近のヒット商品となりました。それを支えているのは特技を生かす女性たちです。

女性の視点生かす「食」と「職」

大田区羽田にあるワタミ株式会社では夕食宅配という新たな視点で、地域に「食」と「職」を提供しています。利用者が急速に伸び、女性の働き手



Hitomi Mashiko

も増えていると聞き、本社を訪ね広報の増子ひとみさんに話を伺いました。

毎日届けられるお弁当やおかずが期待されるのは栄養価やバランス、そして飽きないバラエティーに富んだメニューでなければなりません。

そこで生かされるのが女性の視点。商品開発や管理栄養士を含めた女性社員94名。そのうち既婚者が44名、39名が育児をしながら働いているのだとか（2011年10月時点）。1食500円台という安価で美味しいメニューに仕上げるには、毎日の献立をやりくりする家庭感覚が生かされているのでしょう。